

黒岩祐治

明日を語らふ

1999 10/1 ~

東海村

核燃料工場

臨界事故

目次

水道水が危ない。.....	4
現時点で危険性はない。.....	4
本当に裁かれるべきもの。.....	5
事故原因	7
非公開	8
事故原因についてのもう一つの考え方。.....	9
転換癲癇	10
中性子	10
ジャーナリズムに携わる人間の責任も重大	11
緊急課題	12
封印	13



水道水が危ない。

投稿日 1999年10月1日(金)05時59分

投稿者 K [a027076.ap.plala.or.jp]

報道されていない問題として、水の問題がある。
事故時から、北東の風。取水ポイントに放射能が飛散している可能性も高い。
乗れば、飛散場所は更に拡大するだろう。

現時点で危険性はない。

投稿日 1999年10月1日(金)15時15分

投稿者 k [a027133.ap.plala.or.jp]

今朝から臨界点を下回った現在以降、危険性が無くなったことが確認されている。取水口も変更されている。

ただし、**救急隊員の被爆**からも明らかなように、事故当初の対応が全くなっていないため、潜在的被爆者数は不明。

本当に裁かれるべきもの。

投稿日 1999年10月2日(土)04時01分

投稿者 SLT [tc-1-106.chiba.gol.ne.jp]

みなさんこんばんは。

9月30日に発生した、茨城県東海村の核燃料工場の臨界事故はとにもかくにも収束（もちろん放射能汚染の除去作業はこれからでしょうが）向かいつつあるようです。とにかく、ほっとしました。

さて、今回の投稿は私が定期購読している新潮社の情報誌「フォーサイト」より、原子力問題のレポートをご紹介したいと 思います。（筆者要約）

なにせ、専門的な言葉が多く飛び交う問題ですので、まずは、皆さんの議論のたたき台としての方向性が見出せればと思った次第です。

1 . なぜ、原子力発電は必要か？

皆さんも良くご存知でしょうが、日本は大変資源の少ない国です。そのため、エネルギー資源の殆どを輸入に頼っているのです。

そして、その供給システムは、エクソン・モービル・BPアコモといった米英系の石油メジャーに独占されつづけているのです。そして、これらの会社が石油に代わる次世代エネルギーの開発能力も事実上独占状態にあるのです。（近年の海外石油業界の合併劇は、この文脈で理解されている）

このままでは、エネルギー政策のハンドルを米英に握られたままになる。原子力発電を中核とする核燃料サイクルシステムは、こういった危機感の中で、国際情勢（石油危機など）に左右されない、安定的なエネルギー供給システムとして登場したので

2 . なぜ、「核燃料サイクル」なのか？

通常の前発はウランを燃料として運転しますが、その燃えかずにウランが1パーセントほど残っているほか、新たにプルトニウムが生成されます。

ウランは将来、中国など発展途上国の前発開発でその需要不足が心配されており、当初、出てきたプルトニウムやウランをいわば再利用する形で前発を運転していこうというのが、核燃料サイクルの基本的な考え方です。

3 . なぜ、「安全神話」は次々と崩壊したか？

今回の事故はいろいろな技術的な面から、初歩的な人為的ミスとかいわれています。

果たして、それだけでしょうかというのが私の今回の推理です。（ほとんど、雑誌の受け売りですが）実は、2年前に解体された動燃（動力炉・核燃料開発事業団）の解体劇にさかのぼります。

そもそも、動燃とはどんな組織だったのか。この構成員に全ての原子力安全行政の問題が集約されているのです。

実は、動燃の従業員は元々科学技術庁の出向者、東京電力などの重電メーカー、そ

して動燃そのものに入社したプロパー組といった具合の異常なまでの**混成組織**だったのです。畑も何もかも違う人達が、しかも出向機関相互の交流など表立っては殆どなく同居していたのです。懇親会の提案すら一蹴される始末だというから、よほど仲が悪かったのでしょうか。

そこに、立て続けに不祥事が起きた。しかし、この病巣にメスが入られるのではなく国がやったことは、**動燃解体**。一見、改革されたかに見えるこの策は、実はとんでもないごまかしとセットになっていました。

なぜなら、**動燃の業務が移管された日本原燃**もやはり仲の悪い**混成部隊**だったからです。また、何をすることも1千億円単位の研究開発費も民間に負担される場合が多く、規制緩和と電力料金値下げ論の大合唱の前に、安全への配慮は次第におろそかになっていったのではないかと推測します。

結局、莫大な**安全対策**のコストは**民間**に、そして**科学技術庁**は天下りしていたくせに責任を動燃に押し付け、それにたちの悪いことに一部の原発反対論者が乗ってしまった。安全対策のコストは国がきちっと持つべきで、民間はちゃんとその役割分担を動燃などで議論すべきだ、という正論はどっかに追いやられてしまいました。

実は、高いコストのかかる原発を維持することに**電力会社**の方が、**疑問**を感じ始めているのです。経営的には、LNP（液化天然ガス）火力発電や新規参入の発電業者の方から電力を購入する方が正解だからです。

にも関わらず国が**イデオロギー**と**面子**をかけて**核燃料サイクルシステム**を推し進め、責任は取らず、コストと行動責任ばかり業者に押しつける。耐えられなかったある企業が、1999年9月30日、**安全のルール**を犯した……

という推理が成立するならば、今回の事故の根は深いと思います。

4 . 実は、誰が一番得をしているか？

今回の事故で一番得をしている人、ではないかもしれませんが。アメリカは、ウランの世界最大の供給国です。日本国内での核燃料サイクルシステムが躓き、やっぱりウランも輸入に頼るとしたら……

結局日本のエネルギー政策は、**米英の手のひら**で踊りつづけるのかも知れません。

（参考文献）

「資源エネルギーの新地政学」（フォーサイト1999年8月号）

「動燃解体の落とし穴」（同1997年5月号）

（フォーサイトは新潮社から、会員制情報誌として発行されています。詳しくは同社まで）

事故原因

投稿日 1999年10月2日(土)10時02分

投稿者 k [a027196.ap.plala.or.jp]

今回の事故は、安全管理の不徹底に起因するものである。

- 1．作業マニュアルを無視した作業が日常的に行われていた。
- 2．作業マニュアル逸脱行為後の、事故の安全対策が全くなかった。

1については、報道されている通り、投入量と容器を間違えていたこと。
2については、核燃工場施設の設計ミス（今後、問題にされる予定）、放射能漏れ対策無し、作業チェックが無機能、教育の不徹底。

非公開

投稿日 1999年10月3日(日)00時02分

投稿者 スパイク [tokyo4-101.kcom.ne.jp]

> 今日(2日)日本テレビの午前の番組(司会:桂文珍)の中で、コメンテーター
> の舛添要一氏が救急隊員が被ばくした原因について

「事故の連絡を受けた際、JCO側の説明不足から「転換施設」の「転換」が間違っ
て病気の「癩癩」と判断されると言う事態が生じ、その為に防護服を着用せず被ばく
した」と説明。

氏は政府の原子力関係の委員に就任していた関係から、その辺りの情報が入っていた
のでしょうか。

> 1日、原子力委員会が今回の事故を受けて、緊急技術助言組織会合を開催。議題は
> 「JCOの転換施設における作業員の被ばく事故について」

ところが肝心の会合の内容は、報道機関をシャット・アウトした為、不明。配布した
文書では - 「報道関係者の傍聴」に関して、撮影の為、会議冒頭のみ入社可能……。

これだけの事故を起こしておいて、「情報公開」「説明責任」はどうしたんでしょう
か？

以前、「有事」の際、原発銀座と呼ばれる日本海側の原発をテロから守る為、米・原
子力空母を停泊させる計画があると、朝日新聞が報道しました。

まさか今回の「非公開」も、「安全保障」上の理由を考慮した為とはとても思えませ
んが……。

黒岩さん、何故、非公開にしたのか、その理由についてきっちり関係者から事情を聞
いて下さい。当然、スタジオ生出演！

因みにJCOのサイトでいろいろ関係文書が見れます。先の会合に関する文書も当然
あります。

<http://stagw.sta.go.jp/genan/jco/jco.html>

の「寄港」とする事で原発テロを防ぐ計画があると

事故原因についてのもう一つの考え方。

投稿日 1999年10月3日(日)03時04分

投稿者 SLT [tc-1-063.chiba.gol.ne.jp]

Kさんへ。

はじめてRESします。

事故原因の調査も始まったようですが、確かに報道される限りでは、Kさんの書かれたとおりだと思います。

私は、この点について全く異議をさしはさむつもりはありません。しかし、これだけで終わっていいのかというのが、私の今回の問題提起です。

争点を整理してみますと、

事故 直接の原因 作業員の人為的ミス・教育の不徹底等
(Kさんの投稿)

原子力安全行政の構造的問題
(間接的原因・私の問題提起)

といった関係になると思います。つまり、「事故を起こした彼らを追いこんだのは何か。」という点にもっとスポットがあたっていいと思っているのです。

確かに、この点を突き詰めると「犯罪が起きるのは社会が悪いからだ。」的な論法になる危険があります。

しかしながら、前回の投稿で取り上げましたが、ガイドラインは立派な物を作っても、行動責任やコストを業者ばかりに押し付け、関係者間の不協和音がそれに拍車をかけている。という構図を告発しない限り、結局同じことが何回も繰り返されるのではないかという気がするのです。

この構造問題、ぜひみんなで考えていけたらと思います。

最後に、この問題に関してとくに「自分は素人だ。」と思っている方とこそ、意見交換をしたいと思っています。

私も、えらそうなことを書いておきながら実は全くの素人です。しかしながら、ここ数年来、専門家のモラルハザードは目を覆うばかりです。黒岩さんもおっしゃっていますが、専門家任せにせず、自分たちでちゃんと将来の方向性は議論すべきだと思います。

皆さんは、床屋や美容院は行かれますよね？私は、市民が将来の方向性を打ち出すということは、床屋などで自分の髪をどう切って欲しいか、注文することと同じだと思います。細かいやり方だけ、専門家にまかせればいいのです。

この投稿へのご意見お待ちしております。

最近、美容院は顔剃りをしてくれないことをはじめて知った
SLTより

転換癲癇

投稿日 1999年10月3日(日)23時41分

投稿者 ポルコロツソ [max1-ppp72.hachioji.sannet.ne.jp]

テレビでJCOの人が被曝したとき嘔吐をたくさんしたりして症状が癲癇に似ていたから通報の時に癲癇だと言ったと言っていました。

中性子

投稿日 1999年10月4日(月)23時08分

投稿者 スパイク [tokyo4-100.kcom.ne.jp]

> NHKの夜のニュースでJCOの所長が事故発生から10分経過した時点で測定器から「臨界事故」だと分かったと証言。

又、事故を起こした3人は、作業時に着用を義務づけられている**バッジ**(過去の被ばく量が分かる)をしていない事が入院先の病院から通報された。この3人が規定どうり**バッジ**を着けていたら、事故が発生した時点で「**被ばく**」した事が判明し、その後の救急隊員や近所の民間人まで被ばくする「**2次災害**」は**防げたはずと**、思うのは素人考えか。

いずれにせよ**事故発生**から「**避難**」までの「**経緯**」に関して、何が起きて、それを誰がどんな判断を下してどう処理したか、関係者から事情を聞いて「**検証**」してもらいたいっす！！

> 同じくNHKの「クローズ・アップ現代」では、臨界事故で発生する「**中性子**」の問題を採り上げてました。**事故を想定していなかったJCO**には中性子測定器がなかった為、調達して測定した所、高レベルの数値が検出されてましたが、**避難解除**は「**妥当**」だったんでしょうか。

さっきテレ朝の「ニュース・ステーション」を見ていたら、避難した人の自宅を測定し、「大丈夫です」と言っていたが、測定器は「放射能用」。又、現地レポーターも持参した「放射能測定器」を見ながら「大丈夫のようです」とか呑気なコメントをしてましたが、「**中性子測定器**」でも同じような結果が出るんでしょうか？

ここは是非、国内外の「専門家」の意見が聞きたいし、実際に報道機関には「中性子測定器」で事故が起きた施設の周りを「測定」して欲しい所です。

「中性子爆弾」って建物を「通過して」人体だけ破壊するんですよね。と書きながら、在日米軍が沖縄近海で行った「劣化ウラン弾」の実験と日本海の海底に沈んでいると噂されている旧・ソ連の「原潜」を思い出してしまった。

あと気になるのは、天気と日中の「温度」。ここ数日はまだ日中の温度は高いそうですが、それで雨が降った日には・・・が心配だと思うのは素人考えか・・・。

ジャーナリズムに携わる人間の責任も重大

投稿日 1999年10月6日(水)15時05分

投稿者 黒岩祐治 [ppp9070.po.iijnet.or.jp]

東海村の臨界事故は単に原子力の問題ではなく、日本の危機管理のありのままの姿が露呈したものと見るべきでしょう。今、JCOというひとつの会社の問題がクローズアップされていますが、それは問題を矮小化させる危険性があると思います。

最悪のシナリオを想定しないというのは、原子力発電所だけではなく、日本が巻き込まれる可能性のある戦争もそうですし、生物化学兵器を使ったテロ攻撃もそうですし、大地震などの大規模災害でも同じ事です。これを平和ボケというのでしょうか、ここをこの際、徹底的に洗いなおさなければ、同じ様なことは繰り返されるにちがいありません。

喫緊の課題として、原子力発電所でなくとも町工場のような原子力関連施設を襲えば、簡単に核テロができるということをテロリストたちに見せてしまったことに対して、どう対処するのかという問題があります。

私たち、ジャーナリズムに携わる人間の責任も重大です。

緊急課題

投稿日 1999年10月7日(木)22時56分

投稿者 スパイク [tokyo4-106.kcom.ne.jp]

> JCOの「臨界事故」に関して、報道機関に求められている最重要課題は、

事故の実態を正確にフォローする事で、汚染の被害から地域住民の「生命」を守る事です。

読売新聞によると、30日の「緊急技術助言組織会合」では、科学技術庁の優柔不断な対応に対して、出席者から「税金泥棒！」の罵声が飛び、内閣安全保障室はその御粗末な会議内容に「シビレ」を切らしたそう。

そして4日に非難解除の判断を下し、被害対策を推進するのが、事故処理のノウハウが無い事を露呈した科学技術庁とこの時の会合のメンバーと聞いては、不信感が募るのは当然です。

個人的には、この時の「解除」の決定に際して、地域住民の「安全」に対する配慮よりも小渕政権の不手際に対する批判をかわす為、新内閣をアピールする必要から非難解除を決定すると言う極めて政治的な判断が優先された様な印象を受けます。

亀井政調会長は、早くも「保証」を口にしましたが、臨界事故の実態も正確に把握出来ない状態では、目先の保証だけで処理される可能性が高い。

中曽根さんをスタジオに招き、今後の対応に関して「責任」を伴った言質を取る事が、今、報道番組のキャスターには求められていると思います。

(出来れば、野党の鳩山新代表達にも同席してもらい、次期国会での与野党の対策を明確化して欲しい)

フジテレビでこんな事が出来るのは、黒岩さんしかいませんよ。「特集」潰してもいいじゃないですか！！臨界事故以上に大事な特集って有るんですか？

早朝の2001と深夜のニュース・JAPANでやっても意味無いです。

編集長、検討して下さい。

日本シリーズが始まると同時に、臨界事故も神戸の震災のように過去の出来事として忘却され単なる「賠償問題」として処理される事を危惧しています。

封印

投稿日 1999年10月21日(木)21時51分

投稿者 SLT [ce550.farm.gol.net]

みなさんこんばんは。

今日は、前々回の投稿でご紹介した「フォーサイト」今月号より、進藤保志氏の「東海村臨界事故の核心は何か」というレポートをご紹介したいと思います。進藤氏は、前々回の投稿の参考文献「動燃解体の落とし穴」を書かれた方です。

今回のレポートは、まず事故の内容をかいつまんで書かれた後、「(核燃料開発事業の脆弱さを)一連の発表や報道から、どれだけの人が感じる事が出来たかは疑問である。」と切り出します。

そして、核燃料工場の場合に「核分裂を起こさない」ことが前提となっているため、国が「臨界防止策を確認はしていたが、具体的な安全対策、事故防止策は取っていなかった。」として、安全対策はあくまでJCOまかせであり、事業認可制度も「実際には素通りに近かった。」という関係者の話を紹介しています。

また、親会社である電力業界が、自分たちの原発の安全性については、億単位の金を投じてPRするくせに、下請けのJCOに対しては、安全管理体制から除外してきた点を指摘した上で、「結局、下請けであるJCOは、コスト削減や厳しい作業日程を挽回するために、あえて危険な作業環境での利益追求の道突き進んでいったのだ。」と結論付けています。

これに対する「一企業の特殊事情」との反論に対しては、「一方でリサイクルを強調するのであれば、なぜ、そのリサイクルの輪の「一部」であるJCOにも原発同様の安全対策が取られなかったのは大きな疑問である。」と指摘しています。また、一連のJCO叩きに対しても、原発の燃料の加工・再転換を行える会社が日本にはJCOしかいない点を指摘しています。(つまり、JCOの事業認可取り消しをしても実効性には疑問符がつく)

いつから、誰が言い出したのか走りませんが、「水と安全はただ」などという事はありえないのでしょうか。悲しい事です。

しかし、本当は払うべき人がただで済まそうとしてはいいのでしょうか。と、というのが今回の3回にわたる私なりの、というよりは雑誌と新聞とスーパーニュースを駆使して導き出された私の問題提起です。

安全にはコストがかかるのです。特に原子力については、それは途方もない額なのです。

その正当な分担の議論をしないまま、原子力開発を推し進めていけば、いつかどこかで事故が「レベル7」に達するのは目に見えているのです。それが出来ないのなら、いっそのこと、原子力政策はやめるべきです。前々回の投稿でも紹介しましたが、原

子力より、クリーンエネルギーといわれるLNP火力の発電所や、最近参入が進みつつある、新規発電業者からの電力購入の方がコストは安いのですから。

それでも原子力を科学技術開発やエネルギー資源の自主開発の「大義名分」のためにやるというのなら、是非今後、地球環境全体の汚染にだってつながりかねないリスクに対する費用の分担の議論を尽くすべきでしょう。

今の政策論議、報道等は本当に核心を突いているのか？ 核心の封印、それだけは避けて欲しいとただただ願うばかりです。

最後になりましたが、黒岩さんをはじめ、多くの方の意見を拝見させていただきました。今後の勉強の参考にさせていただきます。それから、kakeiさんのHP拝見いたしました。あのように自分の投稿が立派に再現されているのを見ますと、勉強不足ながら、最低限自分の頭で考え、発言する事の難しさと責任を感じます。ファイル等ダウンロードさせていただきました。ありがとうございます。

それでは、今回は失礼します。

(補足)

前々回の投稿でご紹介した「資源エネルギーの新地政学」のライターは、五十嵐卓氏です。同レポートは「フォーサイト」に連載中です。